

Q.11 高周波式含水率計で水分管理する際の注意点は？

A.11 乾燥直後においては、実際の含水率（全乾法含水率）よりも低く表示されることがあります。

製材品の含水率を簡単に知る方法として、高周波式含水率計が広く普及しています。高周波式含水率計は、表面部（2～3cmの深さといわれています）の水分量を求め、それを基に全体の含水率を表示する機構となっていますが、蒸気式等によって乾燥した直後の正角などでは、表面の含水率が内部より低くなっている場合があります（図1）。このため、乾燥直後の高周波式含水率計による測定値は全乾法含水率よりも低く表示されることがあるので、注意が必要です（図2）。

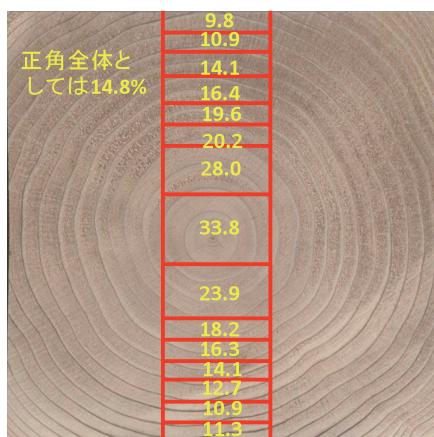


図1 蒸気式（高温セット+中温乾燥）で乾燥したスギ正角の含水率分布（一例）

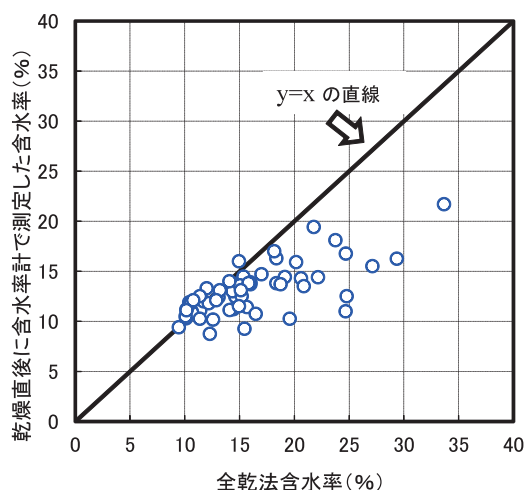


図2 全乾法含水率と高周波式含水率計で測定した含水率との関係

なお含水率計にはいくつかの種類があり、携帯型の場合は、高周波式のほか抵抗式やマイクロ波透過型が挙げられます。抵抗式は、一般に、板材の含水率測定に向いているといわれています。また、マイクロ波透過型の測定対象は構造用製材品とされています。